【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成19年8月30日(2007.8.30)

【公開番号】特開2007-184925(P2007-184925A)
【公開日】平成19年7月19日(2007.7.19)
【年通号数】公開・登録公報2007-027
【出願番号】特願2006-351993(P2006-351993)
【国際特許分類】
Ｈ０３Ｋ　3/356　(2006.01)
Ｈ０３Ｋ　3/037　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０３Ｋ　3/356　Ｂ
Ｈ０３Ｋ　3/037　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成19年6月29日(2007.6.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
フリップフロップは、例えばマイクロプロセッサのパイプライン段階で論理状態を迅速に記憶するために使用される。このケースでは、重要な変数は、記憶される論理レベルがフリップフロップの透過性を定めるクロック信号に関して変更される時間間隔を示すセットアップ時間である。別の重要な変数は、フリップフロップの透過性を決定するクロック信号のエッジと、フリップフロップの出力時に記憶されている論理状態の存在の間の時間間隔を示す遅延時間ｔＣＬＫ－Ｑである。フリップフロップのホールドタイムとは、入力データ項目が、該データ項目がフリップフロップに確実に記憶されるように、透過性を開始するクロックエッジ後に、その信号レベルに留まらなければならない最小必須時間である。従来、フリップフロップに関する先行技術文献としては、例えば特許文献１～３が開示されている。
【特許文献１】欧州特許第０２０３４９１号明細書
【特許文献２】米国特許第６７８８１２１号明細書
【特許文献３】欧州特許第０２５０９３２号明細書